

## P-54

## 骨粗鬆症に対する漢方治療併用の試み

恵光会原病院

○戸原震一，妻夫木茂，松浦達雄，原 敬二郎

【目的】近年，高齢化社会を迎え，骨粗鬆症の患者が増加している。西洋医学的治療として，カルシウム補充・活性型ビタミンD投与・ホルモン補充・ビタミンK投与などがあるが，いずれも確立された治療法ではない。これらの治療法に漢方治療を併用することによって，相乗効果が期待されるのではないかと考え，検討したので報告する。

【方法】アロカ DCS-600 を用い，dual X-ray absorptiometry (DXA) 法で骨塩量を測定し，Tスコア（患者の骨塩量/すべての年齢による最大骨塩量×100）が－2SD 以下で血清Ca・P・ALP・PTHが正常な者を対象とした。サケカルシトニン週2回筋注および活性型ビタミンDの内服単独治療群（Ⅰ群）と漢方併用群（Ⅱ群），ユニカルカルシウム顆粒7.5g（Caとして600mg）の内服単独治療群（Ⅲ群）と漢方併用群（Ⅳ群）に分けて治療を行い，16週後に骨塩量を再検した。漢方薬は補腎薬として八味地黄丸または六味丸を患者の証にあわせて選択した。

【結果】Ⅰ群では差がみられなかった。Ⅱ群では有意に改善がみられた。Ⅲ・Ⅳ群とも改善をみたが，Ⅳ群では明らかに改善した。

【考案】『黄帝内経素問』〈五臓生成篇〉に「腎の合は骨なり、其の榮は髪なり，其の主は脾なり。」と骨と腎の関係が明記されており，骨粗鬆症は漢方的には一般に腎虚の状態と考えられる。

【結論】骨粗鬆症の治療において西洋薬に補腎薬を併用することは有効と思われた。